

科目名		柔道 1							年度	2025	
英語科目名		Judo 1							学期	前期	
学科・学年		柔道整復科 1 年次		必／選	必	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員		宮本功三、後藤晃弘、小西裕司、杉本知、加藤健太、秋田雄大、有山敦士		教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師（接骨院にて勤務経験あり）		
【科目の目的】											
柔道整復師としての柔道教育は、競技目的の柔道を教育するものではなく、柔道整復師としての技術である手技や人格の形成、心身の鍛練を目的とし、人としての振る舞いの基本（人に対しての接し方や対話の仕方）、礼儀作法の習得および昇段が最終目的である。また、「礼法」の所作を学校生活はもちろんのこと、家庭生活、社会生活の日常を実践できることを目的とする。											
【科目の概要】											
柔道を通じ礼法を学び、また基礎体力を養います。											
【到達目標】											
①知識および技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう姿勢、人間性等の三つの柱を軸とし、相手の動きの変化に応じた基本動作から基本となる技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防を理解するとともに、相手を尊重し、敬い、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようということなどや、健康の保持増進や体力の向上を理解し、柔道整復師としての自己の生活に活かしていけるようにする。											
【授業の注意点】											
柔道は、相手を投げ、抑え込み、首を絞め、関節を極める技を用いて攻防を行うので、常に危険と隣り合わせである。学生には柔道の攻防の際に生じる危険な状態をよく理解させ、未然にそれを回避する能力をつける。危険と隣り合わせである授業だけに、意味のない授業中の私語や授業態度は厳しく対応する。授業時数の4分の3以上出席しない者は単位が認められない。											
評価基準＝ルーブリック											
ルーブリック 評価	レベル 5 優れている	レベル 4 よい	レベル 3 ふつう	レベル 2 あと少し	レベル 1 要努力						
到達目標 A	気をつけの姿勢、立礼の正しい姿勢、左坐右起、坐礼の正しい姿勢が十分にできる	気をつけの姿勢、立礼、左坐右起、坐礼が十分にできる	気をつけの姿勢、立礼、坐礼ができる	気をつけの姿勢、立礼、坐礼のうち2つができる	気をつけの姿勢、立礼、坐礼のうち1つができる						
到達目標 B	投げられた際の量の叩き方やタイミング、全身のバランスが十分にできており、頭を打たず技に応じた受身ができる	投げられた際の技に応じた受身が十分にできる	投げられた際の量の叩き方、タイミング、全身のバランスのうち、2つが十分にでき、技に応じた受身ができる	投げられた際の量の叩き方、タイミング、全身のバランスのうち、1つが十分にできる	投げられた際の技に応じた受身ができておらず危険な受身しかできない						
到達目標 C	正しい手の着き方、叩き方、適切な回転、大きな受身、正しい受身の立ち方ができる	正しい手の着き方、叩き方、適切な回転、大きな受身、正しい受身の立ち方のうち4つができる	正しい手の着き方、叩き方、適切な回転、大きな受身、正しい受身の立ち方のうち3つができる	正しい手の着き方、叩き方、適切な回転、大きな受身、正しい受身の立ち方のうち2つができる	正しい手の着き方、叩き方、適切な回転、大きな受身、正しい受身の立ち方のうち1つができる						
到達目標 D	柔道の特性や伝統的な考えを持ち、相手を敬い、礼儀に重んじた行動様式をとることができる	柔道の楽しさを味わい、お互いに協力し教え合って取り組むことができる	自分の状況に合った実現可能な課題を設定し取り組むことができる	相手を尊重し敬う、お互いに協力する、礼儀に重んじた行動様式が少々欠如している	柔道の特性や伝統的な考えを持ち、相手を敬い、礼儀に重んじた行動様式をとることができない						
到達目標 E	目標に関わる課題に対して適切に回答できており、かつ自分の意見が反映されている	目標に課題に対して適切な回答ができており、キーワードも用いられている	目標に関わる課題に対して適切な内容ができており、一部のキーワードも用いられている	目標にかかわる課題に対してキーワードが用いられていないが、概ねできている	目標に関わる課題において、課題に関係のない内容で行われている						
【教科書】											
安全で楽しい柔道授業ガイド第四版－全日本柔道連盟監修に準拠する											
【参考資料】											
【成績の評価方法・評価基準】											
試験と課題により評価する。											
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。											

